令和３（2021)年度事業報告書

令和 3 年 4 月1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人

歯科ネットワーク岡山から世界へ

1. 概要

令和元年度末より広がり始めた新型コロナウイルス関連感染症の影響により、本会の事業活動のほとんどが一旦停止を余儀なくされた。この状況においても行うことができた活動は以下の通りである。

(1) 現地へフッ素うがい用の粉末を寄贈

(2) 現地ステークホルダーの事業を会員へ紹介、協力を促した

(3) 定例理事会（隔月・年度内6回）

これらの活動内容は次項で説明する。

2. 活動内容

(1) 現地へフッ素うがい用の粉末を寄贈

フィリピンマニラ市内の SRD コンコウキョウセンターでは、毎週木曜日にむし歯予防のためのフッ素うがいを実施している。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により現地訪問が不可能となり、うがい用粉末の補充も不可能となったため、郵送により寄贈した。

(2) ベトナムのステークホルダーであるストリートチルドレン友の会（以下、FFSC）は、元々独自の子どもの学費支援プログラムを持っている。令和 2 年度に入りフィリピンのステークホルダー、Self Reliance and Development コンコウキョウセンター（以下、SRD）も独自の学費支援プログラムを作成した。この 2 つのプログラムを現会員へ紹介したところ、フィリピンのプログラムに対しては複数の問合せを得、支援も行うことができた。

(3) 定例理事会

オンライン会議システムを利用し、偶数月に行うこととしている。令和３年度中

に合計６回開催した。

3. 現地へ赴かなくてもできることを模索した年

令和３年度も本会の主たる事業である「発展途上国又は歯科治療不拡充地域での歯科保健健康推進事業」を行うことができなかった。

そして、現地へ赴くことばかりが活動ではないと模索した結果が、フッ素粉末送付であった。

高額な関税がかかるおそれがありベトナムへの送付は保留としたが、フィリピンへは送付できた。また、送付に際し様々なやりとりをすることにより互いの国の状況が知れるなど、活動再開の布石を打つことができた感がある。

次年度は、参加打診や可能であれば現地視察を行い、活動再開へ向け準備を進めていきつつ、フッ素粉末送付のような活動も続けていく。